

九州高校生平和サミット in 佐賀

日 時：2019年3月23日（土）～24日（日）

会 場：四季彩ホテル「千代田館」（佐賀市高木瀬町）

主 催：九州高校生平和サミット実行委員会

3月23日（土）

開会行事

- (1) 開会挨拶
- (2) 主催者挨拶
- (3) 開催県高校生歓迎の挨拶



- (4) 佐賀の高校生によるとりくみ報告



佐賀では、「呼びかけにあたって大変なこと」として、「学校の都合が合わない」、「高校生の平和へ意識の低さ」などが挙げられ、対策として、「2人組を作り署名活動をしていきます」と初めての参加者の抵抗感緩和に繋がる呼びかけに変える、学校の補習と重なっている日時にしない、などの方法が効果を挙げた。

基調講演 「核なき世界と被爆国の役割」

講師 太田昌克先生（共同通信社編集・論説委員、長崎大学客員教授）



新聞記者としてのキャリアを広島から始めた太田先生は、胎内被爆者の支援に尽力するジャーナリストたちの活動や、「わしが死んだらこの子はどうなるんじゃ」という親の言葉に動かされ、社会正義の実現というジャーナリストの使命を深く心に刻みつけられました。その後の記者生活では、核兵器の問題に向き合うことをライフワークとされています。

核政策における日本の役割は非軍事による抑止を大事にすることであるという太田先生

は、川崎哲氏の「行動すれば変えられる」、サーロー節子氏の「核廃絶に命をかけて働きます」という言葉を引用して、平和大使たちを励まされました。

この講演で最初に話題にされたのは、オバマ大統領の広島訪問でした。この訪問には様々な批判もありましたが、太田先生は「事実は確定していない。いろんな解釈が可能だから、何が真実かを考える」ための例として、この問題をこれまでとは違う観点から取り上げられました。それは、オバマ氏が核の問題を「安全保障」ではなく「道徳」の問題として位置づけようとしたことです。このためにオバマ氏は、アメリカの大統領という制約のある立場の中で、広島の実現させたというのです。それは大統領就任時から周到に計画されており、世論の反応を徐々に探っていく「テストリング・ウォーター」という手法が用いられていたことも明かされました。私たちはこれまで知らなかった事実を知ること、物事のあらたな解釈を手に入れることができました。

高校生平和大使によるシンポジウム

テーマ「高校生平和大使・高校生募万人署名活動のこれまでとこれから」

各県の活動報告の後、各県パネリストと参加者による意見交換が予定されていましたが、報告が充実していたため、時間オーバーとなり、意見交換は行われませんでした。ここでは各県の報告のみ紹介します。

ジュネーブ訪問の報告 佐賀 大分



昨年 8 月に開催された国連軍縮会議に合わせてジュネーブを訪問し、集めた署名を国連に届けた。UNI グローバルユニオンや YWCA なども訪問し、世界の人々と連帯して平和な世界の実現を求める活動の意義を確かめた。軍縮会議日本政府代表部の高見澤将林特命全権大使は日本が核兵器禁止条約に批准しないことについて「様々な立場がある」と述べた。

オスロ訪問の報告 長崎



訪問の目的は、核兵器廃絶の訴え、ノーベル平和賞へのアピール、広島・長崎市長の親書を届けるの3つ。現地ではノーベル委員会のほか、同国外務省、オスロ市役所、ノーベル平和センター、日本国大使館を訪問。オスロ商業高校やNGOとの交流では、世界の若者をつながる手応えを感じた。オスロ市役所訪問の日はノルウェー国会が核兵器禁止条に批准を否決した当日だったが、オスロ市は批准しており、様々なアプローチの可能性を実感した。

韓国訪問の報告

熊本



釜山到着の夜は広島で被爆され 2005 年によやく原爆症と認定されたキム・ソンムンさんやチェミスクさんのお話、長崎の幼児被爆者・三田村さんの紙芝居を聞いた。在韓被爆者の受けた二重の差別に心を痛めた。二日目はハプチョン原爆被害者福祉会館訪問・交流を行った。同館は 2017 年 8 月 6 日に開館、原爆の仕組みや在韓被爆者の証言、写真や実物などが展示されていた。

韓国の若者との交流を通して思いの共有や正しい歴史を知ることの重要性を感じた。

学生団体「La Paix (ラペ)」の報告

熊本卒業生



「La Paix (ラペ=平和)」は 2018 年にできた、高校生平和大使・高校生一万人署名活動の OB,OG による、高校生の平和活動支援、小中学校の修学旅行の事前学習など、未来の世代が平和について学ぶためのサポート活動を目的とした学生団体。今年度は、小学校 2 校(複数回の学校も)、中学校 1 校で長崎修学旅行に向けての事前学習、紙芝居、高校生の活動報告などを行ったほか、「平和について学んで、考えるワークショップ」である「学生ラペ会議」を開催した。

「日向 HURP」の報告

宮崎



「HURP」とは、「Human Rights and Peace」の略。宮崎の高校生たちが学校の枠を超えて活動していたが、今年 3 年生が卒業して、一旦解散。現在中学 3 年生の山内が高校入学後活動を再開予定。今年度は長崎の高校生を招いた集いを企画したが、悪天候のため中止となった。署名活動を月 1 回で行う予定だが、地理的に分散していることや知名度が低いなどのハンディがある。

高校生 1 万人活動の報告

長崎 佐世保



現在、13 校 41 名。署名活動は毎週日曜日長崎駅前の高架広場で午後 1 時から 3 時まで行っている。また、集会での報告、修学旅行生への活動紹介を行った。交流校は 12 校に及んだ。地球市民集会ナガサキでは、NGO ブースに出展して署名活動を行った。その他にも長崎と広島の J 1 チームによるピースマッチ、原爆ホーム訪問、チャリティーコンサート、西日本豪雨・北海道地震の



災害復興支援募金活動、署名リレーなどを行った。原爆資料館、大刀洗平和記念館での研修も行った。

佐世保はメンバー7名で月2回午後1時から3時まで四ヶ町アーケードで行っている。集会等にも参加している。

福岡



福岡は、福岡市、久留米市、北九州市（小倉）の三つに分かれて活動しており、なかなかまとまって活動できない。

今後も同世代の人々への訴えを続けていきたい。

熊本



署名活動は月1回、熊本市中央区上通アーケードびぶれす広場前で行い、毎月約10～20人の高校生が参加する。今年で11年目。

署名の際にチラシを配布している。初めて活動に参加した高校生も質問されたとき説明しやすい、署名してもらうだけでなく活動の内容を知ってもらうなどのメリットがある。例会を署名活動後に実施し、学習会や活動予定の確認し、高校生同士で話し合うこともしている。

平和を語りつぐおはなし会、オリジナルのパネルシアター作成と上演も行っている。

3月24日（日）

「平和について考えるワークショップ」（コーディネーター：北村菜々 佐賀）

ワークショップ1

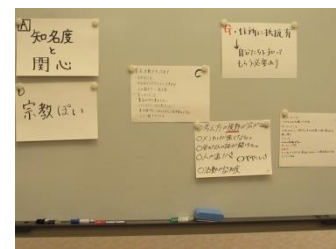
署名活をやってみて

よかったこと

苦しかったこと

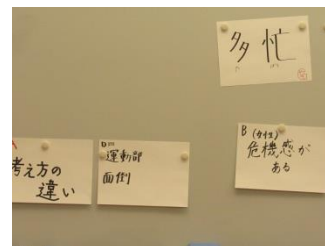
気がついたこと

こうしたらいいと思うこと



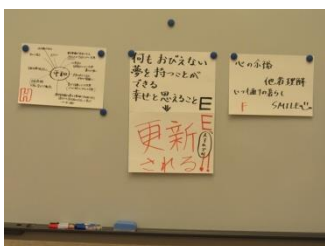
ワークショップ2

なぜ女性が活動に意欲的か



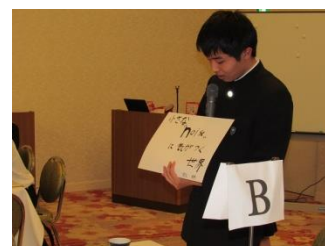
ワークショップ3

あなたの平和観



ワークショップ4

あなたの目指す世界



集合写真



閉会挨拶

